海外新聞

庚午十一月廿二日

自 三十一号
至 三十五号

服部文庫
イ17
88
5

ヨイ17
88
5

京都大学人文科学研究所図書

海外新聞三十一号

千八百七十年東方西斯哥（フランシスコ）毎週刊行新聞ヨリ抄譯ス

伯靈ヨリノ報告ニ普ノ宰相ビスマルクノ第九月十九日我八月ミウスヨリノ書ヲ載ス右ハ十四日ビスマルクヨリ北日耳曼ノ全権公使等ヘ贈レル廻章ナリ即左ニ掲示セリ

仏ノジエールス、ファーブル氏ヨリ當今仏國ノ政權ヲ執リ自ラ防禦政府ト称スル者共ノ名ニテ

仏ノ外國全權公使ノ許ニ贈レル廻章ノ趣ハ足下等通知セル所ナリ偖又兼ルニ此度仏ノチイルス氏外國ヘ使節ノ任ヲ蒙リシ由察スルニ中立國ヘ和議ノ取扱ヲ頼ム為メナルヘシ若シ和議調ヒナバ日耳曼ノ勝利ハ中頃ニシテ奪ハルヽノミナラズ將来仏國ヨリ普國ヲ討ン時普國ニ於テハ方今ヨリハ甚難儀ナル計策ニ陥レラルベシ且余輩思フニ巴勒政府其國内ヘ布令ノ言ハ其民ヲ激励シ方今戰爭ノ苦ニ悩メル人民ヲシテ讐怨ノ思ヒヲ増サシメ普國ニハ利ニシテ仏國ニハ不利ナル條約ヲ拒マシメントスルニ在レハ縱令和約一旦成ルト雖モ果シテ其言ノ如ク長ク續ク可キヿハ信ゼラレス況又和議トテモ遂ニ成リ難カルベシ若シ實ニ和睦ヲ欲セントナラバ方今容易ナラザル事情ニ相當ナル穩辞ヲ以テ人民ノ心ヲ鎮静スルヿコソ肝要ナラン

仏國ノ我國ト和睦ノ趣意實ニ其誠心ヨリ出ル

トスルモ我普國ヘ安穩ナルノ證信（按スルニス トラスブール）ル又ビメツツ等ノ地ヲ割テ無クシテ休戰ノ約ヲ普国ニ與フルヿヲ云フ定メントスルノ請ヒハ只我普國ニハ人情國勢ヲモ知ラザル者トスルカ又ハ日耳曼ノ利害ニ更ニ管セザルノ所為トスルナルベシ如之仏國ノ為メニ中立諸國ノ勸解アランヿヲ現今巴勒執政等ノ企望スルヿハ仏ノ人民ニ和議ノ必要ナルヿヲ思ハシムルヲ妨ル者ト謂フベシ若シ仏ノ人民ヲシテ此度ノ戰爭ハ其自ラ求ル所ナレバ日耳曼ハ到頭之ト戰ハザルベカラズトシテ仏國ト日耳曼（ドコマデモ）ト相對ニテ和議ヲ定ム可キヿ固ヨリ其當然ナルヲ知ラシメバ速ニ抗抵ノ心ヲ屈シテ戰ヒ頓ニ止ムニ至ラン然ルニ今仏人ヲシテ中立諸國ノ勸解アリテ普ノ政府和議ヲ許スヿアラントノ及ヒ難キ企望ヲ抱カシメ徒ラニ其不屈ノ意ヲ愈固ウセシムルガ如キハ之ヲ周旋スル中立諸國ニ於テモ却テ人民ヲ無益ニ殺ス者ト謂フベキナリ

我普國ニテハ固ヨリ仏國内ノ事務ニ関係スベキノ意無ケレハ仏國ニテ如何ナル政躰ヲ採用フルトモ敢テ之ヲ妨ケザルナリ是迄ハ唯帝拿破崙ノ政治タルヲ知ルノミ亦後如何ナル政府ト相議スルニ固ヨリ和睦約條ニハ仏國ノ政躰ノ如何ト執政ノ誰タルトハ置テ之ヲ問フヿ無ク唯強隣ニ對シテノ事情ト自守ノ法トニ由テ之ヲ所置センノミ

日耳曼政府并ニ人民一同ノ志願ハ我國數百年

来仏國ニ凌轢セラレ屢〻危害ヲ蒙リシ所以ノ者ハ國境ノ地勢畢竟我ニ利アヲザルヲ以テノ故ナレハ今要害ノ國境ヲ得テ後来ノ害ヲ防カントスルニ在リストラスブール及ビメッツノ地仏ノ管轄ニ属スル間ハ其攻ントスルノ力強クシテ我守ラントスルノカヨリ倍セルヿ知ル可シ其故ハ南日耳曼全國及ビ萊尼河ノ左岸ニ沿フタル北日耳曼ノ地ニテハ此ストラスブール仏人ノ手ニ在ル中ハ仏國ヨリ南日耳曼ヲ討ツノ関

門常ニ廣ク開ケル者ノ如シ然シテ此二地（ストラス）（ブール）（メッツ）若シ我日耳曼ノ手ニ屬ストモ防禦ノ用ニ供スルノミニシテ我ヨリ決シテ仏ノ地ヲ討ツヿ無ク唯仏ノ為メニ脇カサレテ國危キニ至レルヲ護ラントスルノ外他ノ望ミ有ルヿ無シ然ルニ仏國ニテハ方今一時休戦ノ約ヲ取結フト雖モ一旦其國カ充實ニ復スルカ或ハ外國ノ援助ヲ得ルノ時ハ再ヒ兵ヲ擧テ此度敗衂ノ恥辱ヲ雪カントシテ我地ヲ討ントスルヿ必セリ故

ニ是迄ハ偏ニ仏ヨリ始リテ歐羅巴ノ騷擾トナリシヿアルヲ其ヲシテ再ビ人ヲ攻ムルノ勢ヲ失ハシメハ余輩全ク歐洲ノ為ニ和平ノ利ヲ興ス者ト謂テ可ナラン我國ヨリハ騷擾ヲ起ス等ノ事無キハ固ヨリ人ノ知ル所ナリ夫レ仏國ヨリ屢ク我國ヲ侮辱セレヲ四年間忍ヒテ戒慎シ人民ノ憤激ヲ宥メ戦争ヲ避タリシカ遂ニ此度ノ一戦ト為リシナレバ後来安穏ノ為ニ今我國ノ大功業ノ賞ヲ望ムト雖モ其實ハ唯我國ノ防禦

ノ為メニ必要ナルモノヲ望ムニ在ルノミサレバ誰カ此至正公平ノ企望ヲ非トシ余輩ヲ指シテ法外ト謗ル者アランヤ足下等モ此意ヲ躰シ是等ノ見ヲ以テ持論ト為シ之ヲ主張センヿヲ希フノミ

千八百七十年第十二月十七日我国十月二十五日横濱刊行ジヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第十一月十六日我十月二十三日倫敦ヨリ日軍仏ノ東南ノ方ニ進發シドールニ拠レリ

普ノゼ子ラールホンヽデルヽターンハ一万五千人ノ援兵ヲ得タリ

普ノ王族フレデリックヽチヤールスノ兵速ニ進發シヨンヌ河ニ到着ス

魯ノ執政ゴルチヤコフ氏ノ廻文ニ曰ク方今劇

國ニ於テハ欧洲東方ノ争論ヲ起スノ意固ヨリ之レ無ク只管千八百五十六年ノ條約是レハセバストポル戦争ノ後巴勒ニ於テ魯土英仏以ノ五ノ酋国ニテ為レタル盟約ヲ云フ大旨ヲ誤ラズ且土國ヲ以テ欧洲各國ノ同列タラシムル事ハ魯ニテ承諾スル所ナリサレ氏其條約ニ魯土二国其軍艦ヲ一艘タリ共黒海ニ置ク可カラサル旨ヲ載セタリレカ自今魯土二國共ニ自由ニ軍艦ヲ其海ニ備フルヿヲ願ヘリト

同日倫敦ヨリ巴勒近傍又ハロアール河辺ニ於

テ掲言ス可キ戦闘無シ

普將マンテウヘル巴勒以北ニ進發ス○三万ノ普軍ロクロワニ到着セリ○魯ノ執政ゴルチヤコフ氏ノ廻文發行ヨリシテ人心ノ大動揺ヲ引起セリ○英墺土以ノ四ケ国方今合同シテ事ヲ謀レル由

印度ト欧羅巴トノ間ノ傳信線ノ報告

第十一月十七日我十月二十四日倫敦ヨリ本月十日ニ英國外国事務執政ヲールグランウィール氏ヨリ

魯国ニ達スル書翰ニ魯国ハ去ル千八百五十六年ノ條約ニ違背スルノ道理ナキ旨ヲ論辨シ且斯ル大難事起リテ英魯両國ノ交際ニ差支アルヿヲ詰難シタリ又曰ク魯国ヨリ右條約ヲ結ヒタル国々ニ其條約ヲ篤ト再評スルヿヲ囑セシナラバ其難事暫時起ルヿ無ル可キニ遂ニ此等ノ事ニ及ヒタルハ歎息ス可キ所ナリ

伯靈官報ニ欧洲即今ノ事情ニテハ仏國ドノ戦争猶一層奮発シテ為サヾルヲ得サル由ヲ述タリ

同日倫敦ヨリ」ベルホルトノ城兵城ヲ出テ戦ヒシカ普軍ノ為メニ追卻セラレ仏兵ノ死傷二百人之ヲ有リタル由

第十一月十八日我十月十五日倫敦ヨリ」墺國ニ於テ魯ノ廻文ニ荅フルヿ英國グランヴィル氏ノ荅書ノ趣意ト異ナルヿ無シ○土國ニ於テモ魯國ニ對シ更ニ臆スル色無ク返荅ニ及ヘリト

オルレアン以北ニ在ル日軍尚北方ニ退陣ス

以太利ノ王子アヲスタ公ヲ以テ西班牙ノ王位

ニ撰マントスルヿニ付西班牙議院ニ於テ評議シ可否ノ議論ヲ取リシニ可トスル者百九十一人非トスル者百二十人ナルニヨリ遂ニ其即位ヲ定メタリ○西班牙ノ首都馬德里ニ於テ之レカ為メニ一時動揺セシガ格別ノ騷ハ無リシトナリ

魯國ハ千八百五十六年ノ條約ヲ其儘ニ為シ置クヿ愈不変知ナル由ナレトモ其大難事ノ平治センヿ希望ス可キ所ナリ

ガリバルヂーハ仏ノ野武士ノ一隊ニ将トシテシヤチヨンニ陣スル七百人ノ普兵ヲ不意ニ襲ヒシガ普兵其力ノ及ハサルヿヲ知リテ直チニ降参シタリ

佛ノ北方ニ在ル普兵数度些少ノ勝利ヲ得タル由○シヤトーチエリー辺ニテ一小戦アリ互ニ奮戦ノ後普兵勝利ヲ獲テ仏人三百人ヲ生擒タルノ風聞アリ

北京ニテ欧人ヲ暗殺シタル事件ノ風説一ツモ確

實ナラス

魯国一件ニ付以国ハ英墺土ノ三国ト合同セサルトノ評判アリ○普軍次第ニ進擊ニ及ヒシガドリユーウニ程近キ所ニテ仏兵ニ逢ヒ之ヲ追擦シテマンス府ニ引退カシメタリ

千八百七十年第十二月廿七日我十一月六日横濱刊行ジャッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第十一月廿七日我閏十月五日ツウルヨリオルレアン近傍ニ大戦争アラントスル勢ニシテ已ニモンタルジー及ヒシヤトーダンノ近傍ニテ小戦アリ○普兵ハ仏軍ノ左リニ進擊セシガ遂ニニユービールアル子イブルー等ノ所ニテ仏人ノ為メニ追ヒ退ケラレタリ○仏軍オルレアンニ引退キタリ○仏兵シャトーダンヲモ引拂ナル可シ○

倫敦傳信機ノ報告ニ依レハ普人勝利ヲ獲タル由ナリ

第十一月廿八日我閏十月六日倫敦ヨリ聖彼得堡及ヒウエルサイルヨリタイムス新聞社ヘ傳信機ノ報告ニ魯英ニ於ル黑海ノ事論ヲ決定センカ為メニ各國全權ノ會議ヲ為ス可シト○ラフー城普兵ニ降参ス○ツウルヨリノ音信ニアミアンノ邊ニテ昨終日戰爭アリテ仏兵遂ニ引退キタル由○日人ノ説話ニ仏ノ北方ニ在ル仏軍此戰ニテ数千人ノ死亡ヲ受ケ遂ニソンハ河ヲ渡リ逃去リタリ

普將ウエルデルハガリバルヂーノ指揮スル仏軍ヲリオンノ邊ニテ撃破レリ

第十一月廿九日我閏十月七日倫敦ヨリ最近ノ注進ニ仏兵アミアンヲ引拂フタルニ付キ普軍其府内ニ入リ其右翼ハツウル府ヲ脅カス勢ナリ○チヲンウイールニテ普軍ノ獲タル所ハ大砲二十挺生虜四千人ナリ○普國ニテ議事院ヲ開キ其時

普王ウイルレムハ自國ニテ此度得タル古今未聞ノ勝利ヲ深ク祝シ且一度和睦トナルモ仏ニテ戦ヲ再発セントスルノ口實ヲ設ク可キノ恐アルニ因リ方今和約ヲ許容センニハ確乎不拔ノ證跡アルヿヲ必要トスト

巴維利亜(バウエリヤ)ハ北日耳曼ノ列國會盟ニ加入ス土耳其ノ國帝ハ魯國ノ廻文ヲ見テ大ニ驚駭シ魯國ニテ各國交際ノ道ヲ破ラントスルトモ欧洲各國之ヲ拒マンカ為メニ合同ス可キヿヲ欲スル

ノ意ヲ表シタリ○魯國ニ於テハ專ラ平和ノ返答ヲ英墺二國ニ送リ魯國ハ各國親睦シテ事ヲ謀ル可キヿヲ好メル旨ヲ述ヘタリ○巴勒ニハ三ヶ月ノ糧食アリテ府中ノ軍勢更ニ鋭氣撓ムノ様子無シ○普ノ王族フレドリックチャーレスノ引率シタル軍勢十五萬ナル由

海外新聞三十一号畢

海外新聞三十二號

桑方西哥刊行毎週新聞第四十三號ヨリ抄譯ス

東方事件

魯西亜ヨリノ回答并其答ノ穏ナル事

十一月廿四日我聞十月二日聖彼得堡ヨリ今般魯ノプリンスゴルチアツコフヨリ英墺ノ政府へ返答ノ趣ハ至極穏便ニテ其中ニ先日申出セル箇條ヲ取繕ヒ我國ニテハ固ヨリ双方ノ無事ヲ願フ

ト云フ事ト并ニ貴國ト我ト釁ヲ開ク時ハ殊更東方諸國ニ於テハ和ヲ保ツ能ハスト云フヿヲ載セタリ是ニテ觀レハ魯ハ他國ト牴牾スルヿヲ好マサルナリ

魯普二國ノ相親ム事

同月廿五日我閏十月三日同処ヨリ本府ニテ公ケニ國中ノ新聞紙ニ仏ヲ助ケ普ヲ謗ルヿヲ禁セリ是我ト普トハ利害ヲ共ニスレバナリト

タイムス新聞ニ魯ニテハ更ニ撓ミ無ク申出セル箇條ヲ談判ニ及ブベク英モ亦其輩ニ倣フベキ由ヲ記セリ

倫敦内閣ノ事情

同月同日倫敦刊行ウオルヽド新聞ヨリ別段ノ報告内閣大臣グランウイル氏王宮ウインドソルヘケッスルニ到リ女王ニ謁シ今般魯トノ事ニ付内閣ノ大臣等異議區々ニテ互ニ其説ヲ主張シテ相和セス斯レハ臣ノ如キ共ニ其職ヲ辱ウシテ國事ニ与カルヿ能ハスト奏聞セリ然レバ内閣

ノ改革近キニ在ルベシトナリ

英内閣ニテゴルチャツコフノ返簡ヲ受取リシ事

本日即閏十月三日内閣大臣等一同出席ノ上ゴルチャツコフヨリノ返簡ヲ読上ケタレバ衆皆眼ヲ瞋ラシ臂ヲ張リ議論雲ノ如ク起リテ何時決スベシトモ見エザリシカハ此會議ハ翌日マテ延引トナリタリ尤モ當時グランウィル氏ハ出席之無キ由

倫敦ノ手形相場市ノ周章

同月同日午後第五字倫敦ヨリ只今本府ノ手形相場ノ仲間ニテハ如何ニモ周章ノ様子アリ其退散頃國債ノ手形其外ノ證券類ノ相場一般ニ下落セリ尤モ麺粉ノ價杯ハ其割合ニハ昇ラザレトモ何商賣ノ者ニ限ラス一同不安ノ事ニ思ヘリ又曾政府ニテハ巴勒ニテ取結セシ條約ヲ廃スルヲ鋭意ニ求ムル由ナリ

英ノ内閣大臣グランウィル氏ニ魯ヨリ贈レル返簡并内閣大臣職ニハ異変無キ様

子

同月廿六日我閏十月四日同處ヨリ」昨夜ゴルチャコフヨリグランウイル氏ヘノ返簡ヲ大臣列坐ノ前ニテ読上ケタルニ矢張前日申出セル如ク巴勒條約ノ箇條ヲ改メンコト且同盟諸國ニテモ已ニ條約ノ箇條ニ背キタルコアル由ヲ記シ又グランウイル氏ヨリ貴國ニテ今般右條約ヲ改メントナラハ何故前以テ各國ニ告グザリシヤト詰レル條ノ答ニハ然レハ貴殿ノ申サル、如ク若シ

前以テ我方ヨリ各國ニ告ケナハ果ノ此事成就セシヤ如何ニト言ヘリ

毎朝刊行新聞紙ニ英ノ内閣臣ノ職ハ其侭ニ變ラサルベキ由

聖彼得堡ヨリ

聖彼得堡ヨリ紐育ノトリビューン新聞ヘ金曜日ニ送レル手簡ニ」本府ノガゼット新聞ニ我國ニテハ前ニ申出セルコハ實効ヲ見サル中ハ決シテ止ムベカラス蓋シ英國ノ新聞紙ニ種々様々ノ

事ヲ載セタルヲ以テ我方ニテハ以前ヨリハ猶更言分ヲ徹サントスルノ心益烈シクナレリト又我國ニテハ誰一人戦闘ヲ好ム者無シトモ畢竟巴勒ニテノ條約ハ現然我國ノ不為メニ仕向ケタルモノ、ニ尚脅迫シテ之ヲ守ラシメントナラハ耻ヲ忍ンテ之ニ従フヨリ寧ロ兵端ヲ開イテ命運ヲ天ニ任スニ若ズト決心ノ趣ヲ載セタリト

又同シ手簡ノ廿二日ノ條ニ此方ニテハ合戦ノ

用意ハ仕ラス来春ニ至ラ子ハ固ヨリ用意モ出来不申候夫故黒海ヘ軍艦ヲ備ヘ臺場ヲ築ク支度ニハ少モ取掛フズ候且國中ノ軍備ヲ整ヘ軍用金ヲ集メニコレイフノ鋏甲船製造場ヲ仕事ニ取掛ラル、マテニ用意スルニハ六ヶ月ハ掛ルベク候ト云ヘリ

同日倫敦ヨリウォル、ド新聞ヘ別段ノ便リニゴルチャツコフヨリグランウイル氏ヘノ返簡ニノ初発ノ箇條ヲ言張リテ一歩モ退カザル由且今般

ノ事件ハ魯ヨリ釀シ出セルヿナルニ其兵端ヲ開カント云ヘル科ヲ手際ニ英國ノ方ニ負ハセタル由

又英ノ内閣ニテハ當日マテ評議アリシ事件ニ付再ヒ大議論ヲ発シテ決セザレハ来ル月曜日ニ更ニ公議ヲ催フシ其節彌決着ニナルベキ由

○内閣大臣等来ル火曜日一同ウインドソルニ出テ女王ニ謁シテ會議スベキ由

魯政府ヨリ令ヲ出シテ来千八百七十一年ヨリ三年マテ三年ノ間兵士ニ暇ヲ遣ハセル由

本日出板ノ海陸軍ガセット新聞ニ方今魯國ニ藏スル武器ハ甚タ精好ニシテ各國ニ在ル所ノ武器之ニ及フモノナキ由ヲ載セタリ

ホーリーヘット英地名ノ急便蒸氣車倫敦ヨリ出ル西北ノ街道ニテ不慮ノ事アリシ由尤其巨細ハ未タ知ザル由

ケベックヨリ出帆セルマグ子ット号ノ帆前船本日メルレーニテ之ヲ牽キタル小キ蒸氣船ノ方ニ

倒レ掛リ二艘共沈没シテ損亡夥多ナリシ由

墺帝ヨリ瑞西ノ議員ノ奏聞書ヘノ答ニ今般魯トノ事件ハ容易ナラザル由ヲ述ヘ扨折角ニ衆議ヲ尽ス上カラハ皆報國ノ志ヲ懷イテ聢ト實効相立候様且ハ同盟諸國ノ公利ヲ計ルベシトナリ

不慥ナル風説

同月廿七日我閏十月五日倫敦ヨリ」今午後世間ノ風説ニ魯ニテハ戦ヲ起ストイヘル「アリシハ全ク根モ無キ事ナリトゾ○普國ハ魯ト各國ノ間ニ入リテ和解ヲ勧ムル由尤其申遣ハセル趣意ハ慥ナラズ○仏ノ野武士等上等士官ノ部下ニ伍入セラレ規律モ次第ニ整ヒタレバ数回普ノ輜重ヲ襲ヒ兵器ヲ分取シ或ハ僅ノ小勢ニテ打テ出テ頻ニ普軍ヲ悩マセル由

各國共議ノ支度

同月廿八日我閏十月六日倫敦ヨリ」英女王ハ愈始魯ト釁ヲ開クノ説ヲ納レス○宰臣グランウイル氏今

般東方事件ノ共議ニ付仏國ノ人モ亦其席ニ列ランヿヲ欲セリト若シ彌之ヲ欲セハ普仏講和ノ後ニ非レハ能ハシ○普ノ役所ニテ共議アルベシトナリ○局外中立ノ諸國ニテハ仏國ニ是非トモ和ヲ講スベシト最シヽ勸ムルナルベシ

○都帝ハ今般同盟諸國ニテ魯ニ抗スルノ説ニ速ニ同意セサリシ事ヲ不滿ニ思ヘルヨシ

東方事件

本日内閣ノ會議アリゴルチャツコフヨリ最後ニ言送レル趣ニテハ魯ノ請フ所モ全ク交際ノ法ヲ破レルトイフニハ非スト決定セリ

維也納ノ内閣ニテハ各國ノ共議ニ與ルトノ趣意ヲ肯セサルニ非レトモ前以テノ會議ニ限トその箇條ヲ定メタキ由ナリ

都帝及ヒ大臣等今般ノ事件無事ニ濟ムベシトノ目算ニテ警戒ノ様子ナシ

英政府ニテハ市中ニ在合フ火藥ヲ盡ク買入レタリ○鉛ノ價毎頓二十三ポンド我百十五両許ニ昇レ

リ

ヒナンシール新聞ニ黑海ニ在ル魯國ノ港ニ夥シキ軍用品到着セル由ヲ載セタリ

英ヨリ魯ヘノ返簡并魯國ノ人氣靜マリタル事

倫敦毎日電信機ノ便リニ英墺ノ二國ニテ魯ノ前約ヲ破ラントスルヲ慇懃ニ辨解シテ思ヒ止マラセタリ其證ハ魯ノ新聞紙ニ載スル所ノ議論次第ニ穩ニナリ且我國ニテハ一旦言出セル事ヲ止ムルトテ國辱ニハナラザルベシト云フコトヲ記セバナリト

東方事件ニ付コオント、フォン、ボイスト氏カ私ニ言ヘル說

同月廿四日我閏十月二日維也納ヨリコオント、フォン、ボイスト氏ニ送レル二通ノ書簡ヲ昨日諸議員ノ前ニ差出セレニ其第二通ノ中ニ余ハ前年會盟ノ時魯國ノ辱トナルベキ箇條ヲ條約中ニ列スベキ由ヲ蘊マズ論レタレバ今般

彼ガ其箇條ヲ廢セントスルヿニ於テハ殊更ニ勞心スト記セル由

東方事件ニ付墺ノ情態

同月廿五日我閏十月三日同所ヨリ」本府ノ公私ノ音信共ニ只今出板スル所ノ政府ノ記錄ノ中ニ今般ノ事件無事ニ濟ムベキ由ヲ記シタルヿニ付皆其喜ヲ祝シ且此事件ノ所置ニ付自國ノ政府ノ確然動カザリシヿヲ稱セリ

維也納ヨリノ風說

同月廿九日我閏十月七日同所ヨリ」近頃聖彼得堡ヨリ出セル書付ニ魯ニテハ歐洲諸國ノ早ク會議ノ支度ヲ為サンヿヲ欲スル由ヲ記セリ

聖彼得堡

聖彼得堡ヨリ」トリビユーン新聞局ヘ電機ノ信ニ本府ノエキスツエンビ、ガゼツト新聞ニ今般歐洲諸國ノ會議ヲ催サントスルヿヲ告ビ且斯クマテニ運歩ノ附キタルモノハ全ク我國ヨリ贈レル書簡ノ文段拔ケ目ナキニ因ルヿニテ若シ

否ラサレバ決シテ此會議ヲ催スマテニハ至ルマシト云フヿヲ載セヌ我方ノ書簡ニ委曲幹訳セル箇條ヲ各國ニテ承知セハ甚タ滿足ニ覺フトイヘリ

同月廿四日我閏十月二日「スツヨリ」墺ノ議院ニ於テコヲントフオンボイスト氏今般黒海ノ事件ニ付テハ最早我國君ノ為ニ霑ムベキ程ノヿハ濟ミタレバ遺恨ニ思フヿハ更ニ之ナキ由ヲ衆ニ告ケ且曰ク未タ魯ノ返簡ハ落手セザレドモ方今ノ形勢和戰共ニ強テ言張ル者ハ時務ヲ知ラサルモノトイフベシト衆ニ諭セシ由

フオンボイスト氏ノ事

同月廿五日我閏十月三日「ウエルセイルヨリ」翁尾利ノ議院ニ於テフオンボイスト氏方今東方ノ事件ニ付テハ我方ヨリ思込ミシヿヲ餘リニ深ク打明スハ返テ不都合ナルベシトイヘリ

伯靈ニテ今般ノ事件故ナク治マルヘキ確證アル事

同月廿五日我聞十月三日伯靈ヨリ本府ニテハ今般ノ事件故ナク治マルヘキヿヲ人皆信セリ尤モ我國及ヒ魯國ニテモ今般程ノ事件ニ名國ノ大會議ヲ催ストイフヿハ同意ナキ由

聖彼得堡ヨリノ書狀并ニ弥大會議ノ催シ有ル事

同月廿七日我聞十月五日紐育ヨリ「ペスツ」ノトリビューン新聞ヨリ別段ノ便ニ去ル土曜日ニ墺ニテ聖彼得堡ヨリノ書翰ヲ受取リタル由

聖彼得堡ノトリビューン新聞社ヨリ今午後電機ニテ別段ノ便リニ各國ノ大會議弥初マルヘキ由

英王ノ無事ヲ好ムヿ并ニ内閣會議ノ支度ニ続イテ取掛ル事

倫敦ノヘラルド新聞ヨリ別段ノ便ニ英王ハ成丈兵端ヲ開クヿヲ防キ来ル火曜日ニハ内閣會議ヲ催サントナリ尤海陸ノ軍備ハ急ラス変フル由

魯ノ公使ノ見込

方今本府ニアル魯ノ公使コオントカテラリー本日或人ニ語テ我國ニテハ申出セルヿヲ必ス一歩モ引ク可カラズサレハ英ニテ承知セサル時ハ戦争トナルベシトイヘル由

魯普二國ノ兼約

伯靈ノトリビューン新聞ヨリノ便リニ方今普仏ノ戦争初マラントスル前普ニテハ兼テ魯ニ若シ貴國ニテ局外ニ中立傍観セハ我モ亦其酬トシテ巴勒ノ條約ヲ変スルヿヲ兼諾スヘシト約シ魯ハ又普ニ其酬トシテ墺ノ仏ニ加擠スルヲ防クヘシト約シタル由ヲ公然ニ載セタリ

戦争ハ初マラヌトイフ事

倫敦ノウオルト新聞ヨリノ便リニ本府ノ公使等諸官員ノ説ニ魯トハ兵端ヲ開クマヒ魯ニテハ矢張申出セル箇條ヲ言張ルトモ英ニテハ其彌條約ヲ破ルニ至ラサレハ此方ヨリ取拠レハアルマジトノ由ナリ

魯ニテ言出セル箇條ヲ思ヒ止マラントスル事

同月廿九日我閏十月七日紐育ヨリ私立電信機ノ便リニ今朝倫敦電機新聞ニ魯ニテハ其中出セルヿヲ思ヒ止マリ各國ノ共議ニ任セントノ由ヲ政府ヨリ言出セル由ヲ載セタリ

黒海ノ何國ヘモ属セヌ事

伯灵ノ便リニ巴勒ニ在留スル魯ノ観軍使ノ長フリンスウイックエンスタイン氏仏将トロシユウ

ノ為ニ本府ヲ去ルヿヲ禁セラル是ハ此人今本府ヲ去ラハ府内ノ危急ニ迫レル有様ノ世ニ流布センヿヲ恐レテナリト

タイムスノ新聞ニハ和時戦日ニ拘ラス共ニ黒海ハ何レノ國ヘモ属スベカラスト言フ説ヲ助クル者ハ大ニ之ヲ称シ且曰ク我輩固ヨリ和ヲ好ムヲ以テ往時ノ和約ヲ破ラサランヿト并ニ魯ニテ前約ヲ廃セントスルノ請ヲモ共ニ上メンヿヲ願フ若シ之ヲ破ルニ於テハ我モ亦黙シ

テ止ム能ハスト

海外新聞三十二号畢

海外新聞三十三號

千八百七十年第十二月二十九日我十一月八日毎週刊行横濱新聞ヘラルドヨリ抄譯ス

第十一月二十七日我閏十月五日倫敦ヨリ佛軍ノラ、ヽヨリ進来ル聲勢ノ盛トルヲ見テ既ニアレンノヨリ進軍セントセシ普兵復タ却退スルニ至レリ

同日華盛頓ヨリ驛逓長日本ヘノ飛脚船ヲ半月毎ニ一度送ラントノ議ヲ建白セントスル由ナ

リ

同日紐育ヨリ當所ニ至ル北日耳曼ノコンシュ
ルノ言ニ余輩ハ兵器船積ノ事ニ彼此関係為ス
間敷キ旨本國ヨリ諭告セラレタリ何者萬國ノ
公法ニ局外中立ノ國ヨリ兵器ノ斯ノ如キ船積
ヲ禁スルノ條例無キヲ以テノ故ナリト云ヘリ
エリー号ノ蒸氣船施條銃十五万挺ヲ載セテ火
曜日ニ仏國ニ向テ出帆セントスル由ナリ
同日チカゴーヨリタイムス新聞ノ華盛頓ヨリ

ノ特報ニ云フ大紗領近頃使ヲ以テ公會ニ諭告
スル趣ニ大紗領ハキューバ一件ノ事ハ猶前々ノ
如キ主意ヲ保ツ旨ヲ云ヘリ又外國ト交際ノ間
ニ未ダ其平和ヲ得ザル重事ハ漁獵ノ一件トアル
ラバ〳〵船ノ請ヒト此二事ニ因テ英国トノ争ヒ
ナル旨ヲ云ヘリ
第十一月二十八日我閏十六日倫敦ヨリ昨日モリイ
ルノ戦ニ仏兵勝利アリト云フ此戦ヒ昏黒ニ及
フ頃迄引続キ日軍敗走シテアミンノ前面ノ其

堡砦ニ退キタリ北方ノ仏兵ハ人数多ク且兵備ヨク整ヘリトヾ此日ノ死傷ハ唯数千人トバカリニテ未ダ詳カナラズ普軍ノホッサル騎兵隊ノ名ハ海軍歩兵ノ一隊ニ乗リ入リ之ヲ撃破リシ由サレドモ日兵ノ死傷甚多カリシトゾ

第十一月廿七日我閏十月五日仏國ヂジョンヨリ」ガリバルヂ党ノ兵昨夜パスケヨリ進ミ来リシガ普軍ノ外営ノ為ニ劇シク撃破ラレ兵器輜重等ヲ棄テヽ大崩ニナリテ退走シタリ普ノ大将ウエルデルハ之ヲ尾撃シテプロンビールノ廻リヲ繞リ来リパスケノ近傍ニテ其後軍ニ追付タリ此戦ニ仏兵ノ死傷三百五十人普兵ノ死傷百五十人アリシメッチガリガルヂノ麾下ノ兵ハ二千人アリト云フ

仏ノヒガロー新聞ニ巴勒ノ防禦ノ所詮支ヘ難キヲ以テ其政府ニ和議ヲ決定センヿヲ請フノ言アリシエルノ降服ニ因テ大砲七十門ヲ敵ニ渡シタリ巴勒周辺ノ南ノ堡砦ニテ土曜日終日

劇シキ砲戦アリ

第十一月二十八日我国十ウエルセールヨリ東方ノ事件ノ決定ハ諸国會議アリテ俄羅斯ノ申條ノ採用無キニ至ルナル可シ會議ノ地ハ初メコンスタンチノーブルタラント云フ諸国不義知ニ付シント、ビートルスブルクタラントアリシカ亦不義知ニ付遂ニロンドンタル可キニ一決シタリ俄国ハ全ク勸解シ易キ様子ナリ

英國ノオドー、ラッセル昨日普王ウヰルレムト宴シ丁寧ニ接遇セラレタリ次ニビスマルクニ對面シタリ時ニビスマルクノ言ニ余ハ諸國ノ會議然ル可シト存ジ且俄国ト一致ニアラサル故ニ俄国ノ宰相ゴルツチャコッフノ挙動ヲ見テ甚タ駭キタル由ヲ云ヘリ

戦ノ場所ヨリノ報信ヲ日耳曼ノ新聞紙ニ刊行スルヿハ禁セラレタリ

同日倫敦ヨリ普王ウヰルレムヲ殺サントセシ者アリシトノ風説ハ全ク其実ニアラズ然レトモ

不軌ヲ謀リシ一味徒党ノ発覚セシト云フ一ハ実事ナリ此事ノ所置至テ穏密ニシテ委細ノ事ハ他ニ漏レ聞エス

アミン周辺ニテノ戦ヒニ日兵勝利ノ風説ハ普王ウヰルレムノ書状アレハ信説ナリサレ共書状中委細ノ事実ヲ載セズミウリーニ於テ合戦ニハ普軍三万人ナリシト云フ

同日キリスチアナ那耶駄ノ地ヨリ巴勒ヨリノ軽氣毬今二十五日我閏十月三日当地ニ降レリ其載スル所

旅客二人傳信鴿数羽書状数通アリ

譯者云フ巴勒府普軍ノ囲ミヲ受シヨリ以来外地トノ通路絶エシ故ニ軽氣球ニ乗リ敵陣ノ上ヲ通過シテ書信ヲ外地ニ贈リシガ軽氣球ハ其行ク処ノ方向ヲ必定シ難キモノ故其返書ヲ巴勒府内ニ入ルヽヲ得ス是ニ於テ百方之ヲ工夫セシニ未タ其良法ヲ得サリシカ遂ニ鴿ヲ以テ之ヲ贈ルノ方ヲ発明セリ其為法ハ初メ軽氣球ノ出ル時府内ノ鴿数十ヲ捕

ヘテ共ニ載セ行キ書狀ヲ各方ニ贈リ備其返
翰ヲ此ノ鳩ノ脚ニ結ヒ付テ之ヲ放テハ鳩ハ
其旧巣ヲ忘レズ巴勒ニ飛ビ帰ルナリサレド
モ数百千ノ書狀ヲ一小鳩ノ能ク帶ブベキニ
アラザレハ預メ此返翰ヲ集メテ薄キ紙一枚
ニ極テ微細ノ寫真ニ寫シ之ヲ数通作リテ数
多ノ鳩一羽毎ニ結ヒ付テ之ヲ放スナリ扨其
中ニハ巴勒ニ帰ラザル鳩モアレ𪜈多少帰ル
者アル故ニ之ヲ取リテ此寫真紙上ノ返書ヲ

顕微鏡ニテ読ミ分クルヿナリトゾ嗚呼開化
ノ進歩智巧ノ成就其精妙ナルヿ実ニ是ニ至
ル夫ノ蘇武ノ鴈陸機ノ犬ノ如キモ今ハ奇ト
スルニ足ラズ

同日倫敦ヨリ」日軍ノ将グリリエン兵ヲ率ヰテ
アミンニ入リシ報告アリ

同日倫敦ヨリ」今日内閣ノ會議アリテ俄國ノプ
リンス、ゴルツチャコフノ最後ノ書翰ヲ以テ俄國
ノ請ヒノ一條ノ談判上ニテ行届カザルヿト思

フ可カラザル旨ニ一決セリ

同日倫敦ヨリ今朝ノ電信報ニ英國墺國ニテハ千八百五十六年ノ條約ヲ廃セントノ俄國ノ請ヒヲ断然トシテ謝絶セリ必然俄國ノ辞モ屈スルナル可シ且俄國モ今其請ヒヲ止メナハ名ヲ失ハサルノ退去ヲ得可シ

第十一月二十九日我閏十月七日伯靈ヨリ」昨日普ノ右ノ許ヘ王ウヰルレムヨリ左ノ書翰到着セリ

マチウヘル第一軍ノ一部ヲ以テアミンノ南ノ

仏兵ヲ敗レリ仏軍ノ死傷四千人擒虜七百人アリ普軍ノ損失ハ些少ナリ

第十一月二十八日我閏十月六日倫敦ヨリ」仏人ヨリ左ノ報告アリ仏普両軍ノ人数総計三十萬人今将ニ南州ニ於テ大合戦アラントス普軍ト仏軍ノ相距ル十二里ノ内ニ在リト仏ノトロシュー巴勒内ノ食糧不足ニ付巴勒人一萬ノ府外ニ出サレト欲スル由ノ説ハ無根ノ虚説ナルヿヲ自ラ断ハリタリ

同日仏ノエブリーヨリ今夕普軍當所及ヒイウル河畔ノ平地ニテ仏ノモビール兵ノ為ニウヰレルノ方ヘ追却セラレタリシカ普軍ニ援兵ノ来リ加ハルヲ見テモビール兵退キ去リタリ七萬ノ普兵アミンニ拠リタリ

昨日エンタルジートピチウヰールノ間ニテロアル河ノ仏軍屯集所ノ前ニ劇シキ戦ヒアリ仏軍勝利ニテ大砲一門生擒数多アリシ

同月二十九日我閏十月七日華盛頓ヨリ仏人并ニ日人ヨリ當所ヘ報告ノ信ス可キモノヲ以テ観ル時ハ方今仏國ノ形勢ノ危キコトハセダン落城ノ時ヲ除クノ外ハ之ヨリ甚シキ莫シフレデリック、チャーレスハ左ニ在リメックレンブルグ候ハ右ニ在リテパラヂンノ軍兵ヲ取囲メリ加之ブオン、ドルタンノ軍ハ其前面ニ陣セリツウルノ落去必然近キニ在ル可シ

同日我閏十月七日紐育ヨリ倫敦ヨリノ電信報ニ今朝俄國ハ其請ヒヲ止メテ諸國會議ノ決定ニ任ス

可キニ決シタリト云フ

第十一月三十日我閏十月八日伯昊ヨリ普ノ后ノ許ヘ王ウヰルレムヨリ左ノ書状到着セリ第十一月二十九日フレデリック、チャルレスノ報状二月曜日我閏十月六日ノ戦ニ仏ノ口アル河ノ軍兵大ニ敗績シタリ此時仏兵ハ三十番隊ナリ蓋シ十八番隊ト十五十六番隊ノ一部モ亦之ニ加ハリシナル可シ仏兵ノ死傷一千人擒虜トナル者四千六百人大将オーレール（即ト、パラチン）傷ヲ被リシ噂アリ日軍ノ死傷ハ一千人アリ其中士官ハ少々ナリ

同日倫敦ヨリ英ノ女王ヴヰクトリヤチセルホルストニ行テ仏ノ皇后ヲ見舞ヒタリ相見甚タ懇親ニ見ヘタリ

千八百七十一年第一月七日我十一月十七日横濱刊行ヘラルト新聞ヨリ抄譯ス

支那騒乱ノ事

潰州ノ地ハ復叛賊ノ為ニ暴掠セラレタリ賊徒今ハ其方略ヲ変シテ以前ノ如ク婦女幼児ヲ携

へ数万ノ軍勢ニテ行進スルヿヲ為サス其故ハ斯ノ如クナレバ其進行自ラ遲緩ニ及ブニ依リ土人或ハ逃レ藏レ或ハ防禦ノ准備ヲ為スニ餘裕アルヲ以テナリ賊徒ハ一千二千或ハ一万人位ツヽニ隊ヲ為レテ全州ニ布蔓セリイツニテモ其押来ル時迄ハ何処ニ在ルヤ其出没ヲ知ラス俄ニ村落ノ燃上リ或ハ土民ノ抱負提挈死ヲ逃レテ走ルヲ見テ始テ其来ルヲ知ル程ナリガンチェンノ地ニテハ村落数所之ガ為ニ焼カレタリ訂徴ノ府ハ先頃ノ剽掠ヨリ漸ク回復セシガ復暴略セラレテ其地ノ士官ノ長ト其麾下ノ士二十人程殺サレタリ

デイリ、プレッス新聞ニ云ヘリ廣西地方ノ騒擾ハ次第ニ重大ノ事トナレリ土人等ハ早ク之ヲ鎮静スルノ策ヲ施サヾレハ後害測ル可ラズト恐怖セリ近頃兵器ヲ携ヘタル賊徒懷遠ニ侵入シ剽掠乱殺ヲ行ヒ守衛無キ人民ヲ苦シメタリ此賊徒ハ近辺ノ山中ニ巣窟ヲ構ヘ捕ノ兵モ爰ニ至

ル能ハズ自ラ其田園ヲ耕シ冬ニ至レハ山ヲ下リテ村落ヲ剽掠ス地方官ハ力微ニシテ之ヲ守禦スル能ハズトゾ此騷擾次第ニ甚シク將ニ大乱ニ至ラントスルノ畏レアリ嘗テ太平王ノ叛乱モ其始メハ廣西ノ盜賊ノ暴擧ノ漸クニ盛ニナリシヨリ起レリ殷鑒遠カラス豈忽セニス可ケンヤ

仏普戦争

仏ノ大將ヂュクロー巴勒ヨリ囲ヲ突テ撃チ出テ普ノ大砲二十七門ヲ奪ヘリ他ノ一砲塁ニ備ヘタル普兵ハ之ヲ見テ自ラ其大砲ノ火門ニ釘ヲ塡テ之ヲ棄テヽ退キタリトゾ

ヂュクローノ兵ハヤガテ南ノ方ニ行進シロアル河ノ仏軍ト合セシト云フ説アリ

魯ノ人氣

十一月三十日我聞十月八日聖彼得堡ヨリ本府ノ國内諸洲ヨリ到来セル書翰ノ内ニ何レモ國ノ為ニ忠節ヲ盡スベキ由ヲ述ヘ且縱令敵國合從シテ

攻来ルヒ恐ルヽニ足ラザル趣ヲ載セタリ
政府ヨリハ未タ新聞紙局ヘ載スベキ事件ノ差
圖ナシ
本府ノガゼット新聞ニ偏頗ノ説ヲ載セタルヲ以
テ市中ニ賣ルヿヲ禁ゼラル
今般東方事件ニ付倫敦ニテ大會議アラントス
ルヿヲ魯ニテハ悦ンテ承諾セル由

大會議ノ風説

同日倫敦ヨリ」里昂ニテハ大會議ノ席ニ全權公

使ヲ送ル前ニツウルノ政府ニテ是非ノ爰議ア
ランヿヲ待テル由
倫敦ノ電機新聞ニ本ニテ大會議ノ別段ノ約
束取極リタル由ヲ載セタリ
同府タイムス新聞ニ今般魯ニテ託言セル箇條
ハ極メテ迂拙ニシテ文明ノ諸國ニテハ必ス許
スヿアルベカラズト普王ヲシテ魯帝ニ辨解セ
シメンヿヲ欲スル趣ヲ載セタリ
同日ブリユツセルヨリ」インデペンデンス、ベルシ

新聞ニ伯昊ノ電信新聞ニ英ニテハ魯ヨリ其執
改ゴルチャツコフノ最初ニ各國ヘ送レル書翰ノ
趣意ヲ明ニ辨解セバ大會議ノ事ニ同意セント
記セル由ヲ載セタリ

巴勒ヨリ突出セル兵ノ利ヲ失ヒシ事附
仏兵ノ・アミアンニテ擊レタル事

同日ウエルセイルヨリ月曜火曜ノ両日巴勒ノ城
砦ニテ砲戰アリ續テ仏兵城ヲ出テ劇ク普兵ニ
打テ掛ル此時又海岸ノ仏ノ軍艦ヨリ普軍第六

番隊ノ扣ヘタルラヘイドイヘル方ヘ向テ頻ニ
砲発レテ之ガ應援ヲ為セリ加之仏兵ハ所々ヨ
リ打テ出タルガ皆普軍ノ為ニ追反サレ遂ニ其
兵六百人虜ニセラル大凡此日ノ戰争ニ普卒ノ
死スル者僅ニ一百人士官七人ナリト云フ仏兵
アミアンノ近邊ニテ擊破ラレ隊伍ヲ擾レテア
ラスノ方ニ敗走レ大砲四門ヲ分取セラレタル
由

ボオンニテ仏兵普兵ヲ襲ヒテ追反サレ

シ事并ニロアール ノ兵引退ク事

同月廿八日 我閏十月六日 ボオンヨリ仏ノ牙軍フオーンテイン、ブローニ行カン為ニ其道ニ陣取タル普軍ヲ劇ク襲ヒタリシニボオンニテ普ノ十番隊ト戦ヒ其第五分隊ノ歩兵ト第一分隊ノ騎兵ノ為ニ追捲クラレ死亡甚タ多クシテ引退キタリ此ノ時擒トナリタルモノ極メテ多シト云フロアルノ兵モ此為メニ退キタリ

同月三十日 我閏十月八日 ウエルセイユヨリロアールニ在ル仏軍多勢ボオンニ於テ普ノ第十番隊ト戦ヒ普軍全勝ヲ収メ仏軍ハ死人一千人ヲ戦場ニ残シテ退キタリ其他手疵ヲ被リタル者千七百人普軍ノ為ニ擒ニセラル此擒ノ数次第ニ増スト云ヘリ

巴勒ノ陷リタル風説

同月同日午後第五時倫敦ヨリ巴勒ノ陷リタルト云フ風説ニ付キ本府ノ手形相場甚タ定ラス

戦争新聞

同日ウエルセイユヨリ巴勒ノ囲レタル砌巴勒人ノ為ニウエルセイユニ於テ数多ノ糧食ヲ集メタル由

仏ノ生ロアントウエルプヨリ逃レント謀リシガ其事成ラザル由

月曜日ニ巴勒ノ城兵聖クラウドノ方ニ打テ出デシニ普軍ノ為ニ追反サレタリ尤モ死傷ハ少キヨシ○ウエルセイユニテ人心穏ナラザルヨシ

ロワールノ仏兵盡ク降参セル風説

同日倫敦ヨリ木日午後出帆セルクローブ新聞ニロワールノ兵盡ク降参セル事ヲ載セタリ尤此事ハ全ク風説ニテ本府ニアル普ノ役所ニテハ今夜第九時マデモ其事ノ報告ナシ

仏ノ危殆ニ迫レル様子

同日同所ヨリ巴勒ヨリノ風船ノ便リウエルセイユヨリノ私ノ音信其外伯灵ヨリノ便リニ皆仏ノ極メテ危キ様子ヲ載セタリ○普軍ハ近頃ロワールノ兵ト戦ヒシ時死傷甚タ多ケレトモ尚

故ノ所ニ依然トシテ陣セル由○パラジーンノ仏将ドーレル氏巴勒ヲ救ハンガ為ニ兵ヲ進メシカ其事成ラザル由○巴勒府中ノ糧食次第ニ盡キ僅カニ二週間ヲ支フルニ足ルベキノミト

ツウル

同月廿九日我閏十月七日ツウルヨリ黄昏ノ便リニ近頃オルレアンノ北邊ニテ仏兵ノ勝利ヲ得タル事ハ此地ニテハ專ラ信用セリ

海鳥糞船ノ奪ハレタル事

同月三十日我閏十月八日伯昊ヨリ海鳥糞ヲ積ミタルフオルセッツエル名号船ハムビユルグノ方ニ行カントセシ途中ニテ仏ノ軍艦ノ為ニ分取セラレタル由

仏政府ノ事附東方事件

同月廿九日我閏十月七日ツウルヨリ英ヨリ大會議ノ事ニ付贈レル書翰昨日本府ニ到着ス我ヨリハ未タ返翰ニ及ハズ○我政府ニテハ魯ヨリ申出セル箇條ニ從フベシト英ヨリ強テ申越セルハ

聞ヘザル所置ト思ヘル由

海外新聞二十三号終

海外新聞三十四號

一千八百七十一年第正月十一日我十一月廿一日

横濱刊行ジャッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第十二月二日我閏十月十日ツウル府ヨリロアールノ仏軍一齊ニ前進ヲ初メタリ○昨日仏将チヤンジーハ第十六番隊ノ軍勢ヲ引率シエラリーノ方ヨリ左ニ向テ進発シ五字ノ間戦鬪アリシガ殊ニ接戦ニシテ仏兵銃鎗ヲ以テ劇シク普兵ヲ

衝立テケレバ普兵其鋒先ニ辟易シ遂ニロルグニー及ヒシャトーカンブレノ辺マテ退走セリ

或ル仏人ノ説ニ月曜日我閏十月六日仏将ジユクローノ指揮シタル十五万ノ兵巴勒ヲ突出シホンテインブローノ辺ニテ普兵ト戦ヒシガ仏兵大ニ勝利アリシ此時仏人ノ目的ニテハロアール出張ノ味方ト連合センントテ斯ク突出セシナリ

普人ヨリ方今仏軍一時勝利ヲ獲タルトセシモ未タ確乎タルノ勝利ニハ之無キ由ヲ布告セリ

○仏人ノ説ニ普ノ王族フレデレツキ、チヤールレスハロアールノ仏軍進ムニ従テ退去スト云フ

第十二月三日我閏十月十一日倫敦ヨリ日國ノメクレンブルグ公ヨリノ布告ニ我等昨日ロルグニー及ビアルテニーニテ仏ノ第十五第十六番隊ヲ攻撃シ大砲十一門ヲ分取リ数百人ヲ生擒セリト云フ

第十二月四日我閏十月十二日ツウル府ヨリノ官報ニロアールノ仏軍ハ進撃ヲ止メシトナリ○土曜

日我国十月十一日及ヒ金曜日我国十月十日ニ烈シキ戦争アリ○第十七番隊ノ仏將ソンス創ヲ被ムリテ生擒セラレタリ○普ノ大軍ロアール辺ニ雲霧ノ如ク聚合セシカバ仏軍之ヲ見テ以前陣取リタルオルレアン前面ノ要害ニ再ヒ據守セリ

第十二月四日我国十月十二日倫敦ヨリ巴勒ヲ取圍ミタル普軍ノ囲線其儘整然トシテ更ニ破レズ○日人ノ説話ニ火曜日我国十月七日将ウオンヽデルヽタアンノ指揮シタル巴華利亜國ノ兵隊オルレアンノ西辺マテ侵撃ニ及ビタル勝利ノ次第ヲ述タリ又仏人ノ説ニハ同日ロアールノ仏軍第十六番隊銃鎗ニテ普軍ヲ衝破セシト云フ○水曜日我国十月八日仏將ガリバルヂー普軍ヲアートンニテ撃チ破リ之レヲ追ヒ卻ケシトナリ○同日巴勒ヨリ突撃シタル仏軍敗北シテ夥シク戦死アリ其死骸ヲ收拾ノ為メ仏人ヨリ一時ノ休戦ヲ懇願ニ及ヘリ

第十二月五日我国十月十三日倫敦ヨリ「メクレンブル

グ公ニハミレアン蓋シオルレアンノ誤ナランカ ノ外郭并ニ同所錢道ノ郵館ヲ侵掠シ大砲三十挺ヲ分取リ兵卒千人ヲ生擒セリ○仏將デュクローヤルン河ノ橋ヲ破壞シテ河ノ後辺ニ退去セリ

第十二月六日我国十月十四日倫敦ヨリ米利堅ノ大紡領グランド氏ヨリ同國ノ議院ニ告諭ニ及ビケルハ先年南北戦争ノ時南部ノ需メニ應シ英國ニテ製造セシアラバヽ號ノ蒸氣船北部ノ商船ヲ驚シク侵掠焼滅シタル軍艦ナリノ事件未タ落着セサルヲ以テ此度

確定ス可キ條理アルヿヲ專ラ周旋ストヽ又同人ニハ右ニ付キ英米両國トモ其名分ノ立ツベキ決議アランヿヲ期望シタリ又同人ハ現今欧洲ノ騒乱平治センヿヲ專ラ願ヒ且亜墨利加海岸ノ内加拿他領海岸ノ漁猟可否ノ議論ヲ英國ニテ頑固ニ主張スルニ於テハ合衆國ニハ此事ヲ等閑ニ見過スヿ能ハズ當ニ國人ノ權ヲ保護スベキ策ヲ用ヒザルヲ得ストナリ

十二月六日我国十月十四日倫敦ヨリ英国外国事務執

政アール、グランウヰール氏ヨリ魯ノ執政ゴルチヤコフ氏ヘノ返書ニ專ラ慇懃ヲ表シ其言ニ此度ノ東国事論ニ就キ英国ニテハ固ヨリ動乱ヲ好マサレバ各国會議アルヿ可キ相談ニハ与スヘシト雖モ兼テ言出シタル持論ニ於テハ毫モ変改セザル由ヲ述ヘタリ右ニ付キ專ラ穏便ナル決議ノ企アリト

仏国ノ官報ニロアール川ノ仏軍遂ニオルレアンノ前面ニ退去シテ此處ニ陣セリトナリ○ベルホルト城ハ方今普ノ砲撃ヲ受ケタリ○仏人前週日中三日間ノ戦争ニテ生擒セラルヽ者三千及ヒ大砲七十ヲ損失ス此時普軍モ亦夥シク戦死セリ○普軍ノ地位ハ実ニ危険ノ際ニ在リテ勝敗未定ナル由

十二月七日我国十月十五日倫敦ヨリ仏軍オルレアンニ拠守シタリシガ普ノ王族フレデリツキチヤールス并ニメクレンブルグ公等ノ軍ト決戦ニ及ヒ仏軍敗北シテ悉ク同所ヲ引キ拂ヒ兵卒千

人生擒ラレ大砲四十挺奪ハレタル由○仏ノ執政ガムベッタ氏ハ辛クシテ遁レタリ○仏人ロアール河ヲ越テ退走セリ○普将マンチユブルノ指揮スル軍勢ルアン府ニ拠守ス○仏ノ北軍リイルニ到着ス○仏将ヂユクローハマルン河ノ橋ヲ破壊シタル後巴勒近傍ニ軍勢ヲ引纏メリ○普王ウイルレムニハ初メテ日耳曼皇帝ノ尊号ヲ称セリ○仏人オルレアンニ再拠セレ丁并ニ兵士一万人大砲七十七挺ヲ失ヒタルロア

ール仏軍ノ全敗走ヲ報告セントテ士官一人巴勒ニ来着ス○ガムベッタ氏并ニ仏将バラレンノ言ニロアール仏軍ノ有様利運ナリト云フ

十二月九日我閏十月十七日　倫敦ヨリメクレンブルグ公ボーゼンシーノ近傍ニテ仏軍三隊ト戦ヒ之レヲ撃破リ大砲六挺ヲ獲兵士千人ヲ生擒シタリ此戦ニ雙方ノ損亡枚挙シ難シト

同日倫敦ヨリロアールノ仏軍敗北ニ及ヒシカドモ巴勒府内ハ別ニ動揺ノ景状無シト○メク

レンブルグ公ノ説ニ仏人オルレアン前面ニテ一万五千人ノ兵ヲ生擒セラレタリト云フ○普軍ツウル府ヲ脅レタル由○仏将バラヂンハロアールノ仏軍ト共ニウルソン道中ノ方ヘ退去セシカ日軍ノ追擊ヲ受ケテ此所ニモ踏留ルヿ能ハサリシ○普軍速カニハーブルノ方ニ進発ス○仏國ノ政府ニテハ黑海一件ニ付諸国會議ノ相談ヲ一議ニ及ハス悉ク兼諾シ又英国政府ヨリハ施行ス可キ會議ノ主意ヲ魯国ヘ言ヒ送レリ

十二月十日我閏十月十八日倫敦ヨリ「ガムベッタ氏ハ一時休戦ノ談判ヲ為サンガ為メニ巴勒ヲ出立致シ度由ヲ同國外國事務執政ジユル、フアーブル氏ニ請ヒタリ其実ハガムベッタ氏ノ目的ニテハ仏國ニテ最早盧森堡ノ局外中立ニハ更ニ関セサル旨ヲ仏ノ國會ヨリ布告セシメントナリ○仏國政府ニハツウル府ヲバボルドーヘ遷スヿニ決セリ然レドモガムベッタ氏ニハ猶軍

勢ト共ニツウル府ニ在リ○魯英ノ両國ニテハ仏國ニ於テ東國事件ノ相談ヲバ一議ニ及ハズ悉ク承諾シ剌ヘ大事ニ至ランヿヲ好メルノ議論アルヲ以テ各忌ミ嫌ヘリ○仏國ノ持論ニテハ方今ノ國難ノ外別ニ欧洲ニ騒乱ヲ引興スヿモ有ランカト諸人恐怖ヲ懐ケリ

十二月十三日我閏十月廿一日倫敦ヨリ」普ノ軍議愈〻巴勒ヲ砲撃セント一決ス○黒海一件ノ會議正月初週日ニ行フ可キニ決セリ

普軍デーブヲ引拂ヘリ○倫敦在留ノ米利堅公使急速本國ヘ呼ヒ返サレ公使館附ノ書記官モラン氏一時之レガ代リヲ為セリ

歐洲各國教育並淺深表

欧洲各國教育ノ事

茲ニ記載スル所ノ欧洲各國學校ノ多寡童児教育ノ淺深等ハ千八百七十年去ル十月我九月中公行ノ藝術會社月刊新聞ニ出ル者ニシテ此會社ノ書記ヌーブ、ホステル氏又老婆心ヲ以テ此ニ圖會ヲ加ヘタリ此説ハ元来巴勒府公行ノ書中ニ出シヲ同府書肆モレル氏ノ抄出シテ刊行スル所ナリ又此圖ハマニール氏ノ作ル者ニシテ圖中教化ノ級ヲ四等ニ區別セリ即チ其順次左

ノ如シ

第一等ノ教化

薩索尼國（サキソニー）○近来此國民ハ一人トシテ書ヲ読ミ字ヲ知ラサル者無ク総テ必用ノ學藝ヲ學ヒ教育ノ道甚タ嚴密ニシテ國中ノ童児擧テ學校ニ入ラザル者無シ既ニ千八百六十三年ノ撿査ニ國内村里ノ學校千七百四十一箇所ニシテ之ニ入ルノ生徒平均シテ一校毎ニ三百三十七人トナリシ由是全ク大数ニアラズ実ニ日々其學校

ニ出ル者現ニ其数ニ充ル者ニシテ其内生徒ノ数此数ヨリ唯一人ヲ減スル者二校アルノミナリト又市中ノ學校二百七十五箇所アリ是亦生徒ノ負大抵村里ノ學校ト異ナルヿ無シ

瑞士（スウイツルランド）國○此國ノ民ハ又拳テ文筆ヲ學バザル者無ク且加フルニ他ノ必用學藝ヲ研究ス大低童兒七歳ヨリ十五歳ニ至ル迄全キ教育ヲ受クシュリッチ州ニテハ人負ヲ平均シテ四人ニ一人ノ生徒アリ又シュルゴー州ニテハ五人ニ一人ワウト州

ニテハ童兒二十分ノ十九迄ハ皆學校ニ出テ學藝ヲ勉メベルン州ニテハ其兵七トナル可キ者ハ悉ク文筆筭術ニ習達スヲ平均スルニ筭筆ヲ知ラサル者百人ニテ三人若クハ五人ニ過キス偖国中ニ學校ノ数七千百六十ケ所生徒ノ数三十九万人ニ及ヘリ而メ生徒一人ニ付キ教育ノ費用一フランク我十九十五セントム我一分許（大約一シルリング我十三分許七ペンス一ペニートス夫ハ一多余）レ瑞國ハ國内各州ニ別レタルヲ以テ中ニハ教

化ノ後ルヽ者アリ是蓋シ僧徒ノ威権國内何処ニ於ルモ必ス公事ニ関係スルニ因レハナリ故ニ圖ニ示ス如ク其一等ニ位スルヲ欲スルノ瑞國既ニ此情ヲ會得スルヨリベルン州ニ於テ公會ヲ催シ二百二十八人ノ者同意シテ七十七人ノ説ヲ破リ是迄経驗スルニ国民ヲシテ學藝教育ノ規則ニ従事セシメントニハ必ズ僧徒ノ長ニ順ハントスルノ情アルヲ以テ大ニ教育ノ道ヲ妨ケ両道必ス並立ス能ハザルヲ知リ向来僧

徒ニ属スルノ人ヲ挙テ學校ノ教官ニ任スルヿヲ廃止スルヿニ決セリ故ニ爾後国内ノ學校ニ加ハリタル僧徒教官ノ分ハ悉ク辞職ス可キ公報ヲ得ルニ至ラン

日耳曼(ゼルマニー)国ノ小部落○総テ此小部落ニ於テハ教育ノ道洽カラザル所ナク其法甚タ嚴密ナリ凡ソ此国ニ遊ブ人総テ不學ノ人ヲ見ルヿ無シト云ヘリ而メ此小部落ハ侯国ナッソー侯国ペッセハノーブル及ヒ侯国ウェーマルユイッセナ等ニシテ

此国ニハ悉ク整備ノ學校数多ヲ設ケ置キ教育ノ道実ニ至ラザル無シト云フ

連(デキマーク)国○此国人ハ千百中ニハ稍不學ノ者アリト雖モ先概シテ悉ク文筆算術ヲ知ラザル者無シ童兒十四歳ニ至ル迄學校ニ入リ教育甚タ嚴ナリ国中ノ學校二千五百二十ケ所生徒ノ数六万千四百九十五人トス

普魯士(プロイセン)国○此国兵士トナル可キ者百人中ニテ不學ノ者三人トス而メ国内東方ノ一二州ヲ除

クノ外童兒大低皆學校ニ入リ千八百六十七年ニハ国中ノ學校十二万六千百九十七ヶ所ニシテ之ニ入ルノ生徒三百九万二百九十四人教育ノ法又甚タ嚴ナリ

瑞典国（スヱーデン）○國民文事無キ者千人中ニテ一人トシ學校ヘ出ル者五人ニ一人トセリ教育ノ法又嚴ナリ

巴丁国（パテン）○国中ノ童兒皆教育ヲ受ケザル者無シ此国千八百六十四年ノ頃両公會ニ於テ學則ノ評議アリケルカ此時同意セザル者僅カ両名ニシテ餘ハ悉ク同論タルヲ以テ則チ其時學則一定シタリ尓後國中ノ學校各々種族ノ首長ニ因デ撰擧セル官員ノ指揮ニ任シテ事ヲ所置セシメ聊カ官府寺院等ニ拘ルヿ無ク學校ハ自カヲ以テ保持スル事トナリタリ

瓦敦堡（ウエルテンベルク）○此國ニ於テハ農夫處女ニ至ル迄文筆等術ヲ學バザル者無キ故縱令酒店鷄園（イヤシキ家ハヒモノ）ニ至ルト雖モ不學ノ者ハ一人モ之無ク三十戸ノ村落

毎ニ必ス一學校ヲ設ケ置キ童児皆其門ニ入ラザル者無シ教育甚タ嚴整ナリ千八百三十八年ニ生徒ノ数八人ニテ一人ノ平均トス

和蘭國○此國ニ於テハ総テ貧窮ニシテ童児ヲ學校ニ出スヿヲ懈ル輩ハ官救ヲ受ルヿ能ハズ不學ノ者ハ百人中ニテ三人トシ千八百三十八年ニハ生徒ノ数八人ニ一人ノ平均トス

諾耳威國○此國ノ人ハ大抵筭筆ヲ學ヒ學校ニ入ル者七人ニテ一人教育ノ法亦嚴ナリ

巴華利亜國○此國兵士トナル可キ者ヲ平均スルニ百人ニテ七人ハ教育ヲ受クルヿ無シ而メ學校ノ数ハ千四百六十九ケ所之ニ入ル人生徒六十一万千四百五十一人教育ノ法甚タ厳ナリ

第二等ノ教化

仏蘭西國○國中兵士トナル可キ者ニテ文事無キ者ハ百人中ニテ二十三人ニ及ヒ又年齢七歳ヨリ十三歳ニ至ル迄童児教育ヲ受ケサル者二十万以上ニ及ヒ既ニ學校ニ入リタル者ト雖モ

百人ニテ三十四人ハ不學トス國中不學ノ地方ハ殊ニ仏國ノ中央南方ノ内プリタン半島ロイル河南方ノ地方及ヒ西班牙ト地中海境界ノ地方トス又仏國ニハ童學校七万四千三百四十ケ所之ニ入ルノ童児四百九十八万四千百八人而メ夜學ニ出ル者三万二千三百四十組則チ此成丁八十三万人トス但シ教育ノ國費一人ニ五十五セント(大約五ペンスト)ス

比利時國(ベルギユーム)○千八百六十三年ニハ農兵文筆無キ者八百人ニテ三十人トス又此國千八百六十五年ニハ新郎新婦千九百六十四人ニシテ千三十二人ハ自ラ婚姻ノ證書ヲ認ムルヿ能ハズ則チ百人中ニテ四十九人ハ不學ノ者ナリ而メ國中ノ學校四千八百十四ケ所生徒ノ数六十万人トス

英吉利國(スコツトランド)○蘇格蘭ハ教育ノ道行キ届キ輿論ハ不學ノ者混淆シテ一様ナラス又阿爾蘭(イルランド)ニ於テハ教道未タ普子カラズ國民文事無キ者殆ント半ハニ至リ千八百五十八年ニハプレストンノ囚

勇百人ニテ四十人ハ教祖ノ名ヲ知ラス又女王ノ名ヲ知ラサル者六十人ニ及ベリ當時會社ヲ立テ切ニ教育ノ道ニ心ヲ労シ進歩ヲ裨ケントスト云フ國内ノ學校五万九千六十五校生徒二百五十三万五千四百六十三人教育ノ國費一人ニ一フランク十九センチユム(大抵十一ペンス)トス

第三等教化

以太利國○此國北州及ヒチユスカ子ノ内ハ大抵教育ノ道行キ届クト雖モ南方及ヒシヒリーニ於テハ居民無智蒙昧實ニ甚シトス國内ノ諸州ヲ挙テ一般無智ト謂テ可ナリ千八百六十四年ニハ學校ノ数三万千八百所之ニ入ルノ生徒百十七万七千九百十四人教育ノ國費一人ニ四十一セント(大約三ペンス半)トス

墺地利國(オストリヤ)○日耳曼ニ入ルノ部ハ教育ノ道有ト雖モツレンシルウエニーガリシー翁加利(ホンガリー)及ヒ土耳其境界ニ於テハ全ク教育ノ道無ク無智甚シトス千七百七十四年以来國中教育ノ道ヲ甚タ

厳峻ニスト雖モ此法ヲ守ルハ只日耳曼州ニ属スル所ロ而ロナリ又タイロルボヘミー及ビモラビーニ於テハ童児百人ニテ九十九人ハ學校ニ入リガリシーノ農夫ハ文華ノ無キ而已ナラス何レモ童児ヲ學校ニ入レル者無シ又村落更ニ學校ヲ設クル所無シ但シ童児學校ニ入ルハ唯市中ノミトセリ然ヒ是亦必ス入學スルニ非スシテ甚タ随意ナリ翁加利ニ於テハ童児學校ニ入ラサル者其半バニ過キ又クローチーニ於テハ童児學校ニ入ル者百人中纔ニ二十人トス是レ此地ハ宗教修行成就ノ證書ハ勿論其他諸學ノ修行ヲ為ニモ婚姻ヲ取結フニモ必ス宗教ノ證書ヲ要スレバナリ

布臘國（キリシヤ）○此國人必用ノ學藝無ク一般無智ノ者多シ生徒ノ数八人ニ一人ノ平均トス

第四等教化

ポンチヒシール、ステートノ國民皆無學ナリ

西班呀（スパイン）國○此國教育ノ道進歩甚タ速カナラス

現今國中ノ學校二万四千三百五十三ヶ所生徒百二十五万千六百五十三人アリト雖モ千八百五十六年ニハ生徒ノ數六十五人ニ一人ノ平均トス國民皆無智蒙昧教育ノ國費一人ニ四十セント(大約三ペンス半)トス

葡萄牙國(ポルチガル)○國人不學ニシテ學校ノ數甚タ少ク規則亦善ナラス生徒ノ數八十一人ニ一人ノ平均トス

モールド、ハラチー○國民大抵教育ヲ受ルヿ無シ

魯西亜國○此國農夫文事ヲ知ル者甚タ稀ナリ國民八千二百万人ノ内教育ヲ受ル者僅カニ三百五十万人(千人ニ四人ノ平均)此内四分一ハポーランドニ屬シ歐洲魯國ニ於テ費ヤス教育ノ國費一人ニ二十九セント(大約二ペンス)トス

土耳其(トルキー)國○一般無學ニシテ學藝ノ知ル者甚タ少ナシ

海外新聞三十四号畢

海外新聞三十五號

千八百七十一年第一月十七日我十一月廿七日横濱刊行ジャッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第十二月十四日我閏十月廿二日倫敦ヨリ金曜日我閏十月十七日ニ普ノ王族フレデリッキ、チヤーレスノ軍勝利ニテペエルソンヲ拔キテ拠有ス○普軍ベルホルト城ヲ攻撃シ勝利アリ○第三番隊ノ普軍ポルゼノ方ニ進発ス○普將メクレンブルグ公ノ軍ト仏將ジヤンジイノ軍ト三日間烈シキ合

戦アリ仏軍ニハソウル府ヨリ数多ノ應援ヲ得タリシガ普軍竟ヒニ勝利ナリ○金曜日我閏十月十七日普軍ホウゼンレーヲ拔イテ之レヲ拠有シ一万五千人ヲ生擒リ大砲六門ヲ分取レリ

第十二月十四日我閏十月廿二日ポルドウヨリ仏ノ執政ガムベッタ氏ノ一時休戦ヲ懇願セシヿヲ喜フ者ナカリシガ欧洲中立ノ各國ニテハ仏国ヲシテ各国ノ集會ニ仏名代人ヲ差出スヿヲ容易カラシメン為メニ再ヒ休戦ヲ希望セリ

普国ニテハ最早盧森堡ノ中立ヲ許サル由ヲ陳スル同国ヨリノ達書水曜日ニベルヒ利盧森堡和蘭英吉利等ヘ一時ニ通告ニナレリ○モンノジ

○今日落城ニ及ベリ

第十二月十五日我閏十月廿三日倫敦ヨリ巴勒氣球ノ便ニ仏国ニテハ人民モ政府モ飽クマデ抗敵センヿヲ決セリト言フ仏将シヤンジイニハ兼テロアール河ノ右岸ニ出張アリシガ其処ニテ支ヘ難クソウル及ビブロアノ辺ニ退去ス○パー

ブル港ハ敵手ニ落チタルノ報告アリ○今日我国十月廿三日倫敦ニ於テ至要ノ事件タル盧森堡中立一件ニ付キテ執政局ノ集議アリ

ブロア敵手ニ落チタリ○ハプスフルグハ悉ク敵ニ奪ハレ大砲六十五門ヲ分取ラレ兵士六百人ヲ生擒セラレタリ○普人大軍ヲハーブル港ニ引纏タリ

エブリウノ西ニ接スルポーモントハ一戦ノ後普軍ノ手ニ落チ大砲六十五門奪ハレ兵士三千人ヲ擒セラレタリ○仏人ノ手ニ在ル普人ノ生虜二百三十七人モンメジーニ於テ免サレタリ

○ベルホルト城ニテハ必死ニ防戦ス○仏軍ブアンドンヲ引拂ヘリ○普軍ノ已ニ拠有シタルハーブルデーブブエカン等ノ諸港仏ノ軍艦ニテ囲ミタルト云フ○巴勒周囲諸砲臺ハ今ニ依然タリ

第十二月十八日廿六日我国十月倫敦ヨリ仏将シヤンジーノ軍去ル土曜日ニ普軍ノ前衛ニ攻撃サレ

タリ○金曜日ニ普軍又ランクル近傍ノロング
ノ要害ニ在ル仏軍ヲ攻撃シ右両城ノ内マテ追
卻セリ○仏国官吏ノ音信ニ去ル十四日メクレ
ンブルグ公ノ軍勢フレトー城ヲ攻メテ拠有シ
タリシガ金曜日ニ我閏十月廿四日仏軍ノ為メニ取返
サレシトナリ
第十二月十九日我閏十月廿七日倫敦ヨリ去ル十八日
ノ夜ニ二十四万ノ普軍ツウル府ノ仏軍ト烈シ
キ戦争アリシガ竟ニ之レヲ拔イテ拠有セリ○

巴勒ヨリ氣球ノ新報ニハ巴勒ニテハ去ル二日
ノ氣球便後一戦モナキ由○府中ノ者今ニ屈ス
ルノ色ナシト云フ

千八百七十一年第一月廿三日我十一月十三日横濱刊行ジャパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

アデン號ノ蒸氣船来着ニ由テ得タル新聞ニハ去ル第十二月二十七日我十一月六日巴勒燒擊ノ始マリシコトヲ載セタル同日迄ノ傳信機報告ヲ載スルト雖モ別ニ擧クベキ者ナシ

メドラス英領印度ヨリ第一月六日我十一月十六日出ノ私用傳信機ノ報告ニハ當日以前ハ別段ノ事件ナシトゾ

モオン、アブロンノ陣營ヲ普軍燒擊ニ及ヒタリ
○普軍メジールヲ襲ヒ取テ之レニ拠レリ○其
他普軍些少ノ勝利アリタル由○東方事件ニ付
キテノ各国ノ會議延引トナレリ○アルラノ仏
軍悉ク退去ス○ウイトレ普軍ニ破壞セラル○
仏国ノ国体已ニ共和政治ニ変改シタルヲバ英
国ニ於テ承允セズンバ東方事件ノ會議ニ仏国
ヨリ名代人ヲ出スコトヲ嫌ヘリ
當月二十二日我十一月朔日ツウル府落城シタリケレ

バ仮政府ヲハ兼テポルトーニ還スノ決議アリ
シニ由テ其官員オルレアンノ方ニ進メリ
ブロアトオルレアントノ間ニ仏ノ怪我人六千
人許此處彼処ニ轉ヒ居ケルガ何ンモ療治ノ手
當ナク実ニ顧視シ難キ景況ナリシト○延頃已
勅府内ニ反逆人出来タルトノ評判アリ然レ氏
慥カナル官報ニハ絶ヘテ此事ナシ
當月二十三日我十一月二日仏軍ポンノハエルニテ普
軍ト七時ノ間合戦アリシガ仏軍勝利ナリ

巴勒ノ焼撃初リシカバ當府ニハ兼テ期シタル事ナレバ更ニ屈セズ突出ノ鋭兵爰ヲ先途トカ戦セシニ由テ普軍ノ損傷夥レトナリ○日入ノ報告ニ仏将フレテセルブノ指揮スル六万ノ兵普将マンタフエルニ襲ハレ其軍敗走シ即夜深更ニ及ヘルヲ以テ稍ク追撃ニ脱ガレタリ

當年第五月我来未年三月ヨリ四月ニ弥ルニハ香港ヨリ長崎迄水底ノ傳信線出来ス可キトノフナリ

盧森堡ハ去ル十八百六十七年我慶應四年ヨリ普例

ノ間ニ在ツテ局外中立ヲ保チ居タリシガ方今ノ際時勢止ムヲ得サルヨリ其国ヲ普国ニ合セントノ論議アレドモ国民ハ不承知ナル由ヲ領主ニ建言シタリ

第十二月二十二日我十一月朔日倫敦ヨリ水曜日我閏十月二十九日ノ夜巴勒ノ諸砲臺ヨリ烈シキ發炮ヲ初メタリ○水曜日ノ拂暁ニ巴勒ノ守衛兵三手ニ分レテ普軍ヲ襲ヒ数時ノ間戦ヒシカ普兵ニハ當府ノ前面ニ預備隊迄モ呼集メ砲兵ノ数ヲ増シ

恰カモ百雷一度ニ発ノカ如ク数砲シケレハ仏軍之レニ辟易シ竟ニ退去セシトゾ

第十二月二十二日我十一月朔日仏ノ官報ニ普軍ロアン近傍ノ国ヲハ悉ク引払ヒツウルヨリ先キヘハ決シテ一歩モ進マズ却テオルレアンノ方ニ退去ス是レハ蓋シ所々ニ仏軍計略ノ運動ヲナシ普軍ヲ術中ニ陥シトセシニ由レル者ナリ

第十二月二十三日我十一月二日ポルドウヨリ巴勒ヨリ昨日ノ氣球新報ニ仏国ニテハ二十一日ニ攻撃始リシトノ公告アリ

仏将ジユクローニハモンブエルラノ方ノ塲処ヲ拠有シ仏将ブイノワハブイルレーエブラル并ニマイゾンブランシユニ拠有ス○仏人ノ説ニ普軍ニハツウルニ侵入セズブロアニ退去セリト云フ

第十二月二十三日我十一月二日仏羅稜薩ヨリ以国ノ議院ニテハ同国ニテ羅馬遷都ノ重事ヲハ六箇月ニ成功スル執政ノ暗筭ヲハ厚ク賞シタリ

第十二月二十三日倫敦ヨリ今朝ノ新聞ニ黒海ノ事ニ付キ各国ノ會議第一月三日我十一月十三日倫敦ニ於テ始マル可キ由○仏国ヨリハ名代人トシテチエール氏ヲ差出スナラン

第十二月二十六日我十一月五日仏羅稜薩ヨリ以国王子アマジユース是国ヲ指シテ發足ス

亜力伯ノ続キニテモオンセニーストト云フ以国境ヒノ高山ヲ穿開シ蒸氣車道ノ造建成功セリ

普軍ツール府ニ入リ洩セズ同所ノ鋏道ヲ破却シタル後布令ニ従テ其陣営ニ退去ス尤モ其前同所ノ奉行ヨリ普軍ノ侵入ヲ陳謝セシ事アリシガ右退去ノ事ハ全ク其歎願ニ因レルニアラズ

第十二月二十七日我十一月六日伯国ヨリ今日ポアン城ノ焼撃初マレリ○仏人ノ説ニ仏人ロイテブロンブイレニ在ル普軍ノ陣営ヲ侵掠セントゾ曩キニ囚虜トナリテ日国ニ送ラレタル仏兵同

国ヲ逃レ去ントス企タル者アリシガ去ル金曜日ニ其事発露シ其志ヲ遂サリシトナリ

千八百七十年第一月二十七日我十二月八日横濱刊行ジャッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

仙将ソオルハ政府ヨリ免職ヲ言ヒ渡シタリ其故ハ曩キニ此人ツウルニ在リシ時敵兵未タ當府ニ近寄ザル中ニ大ニ凋障シテ大小銃ハ勿論許多ノ軍器ヲ捨テ置キ逸散ニ府中ヲ逃去リ其職掌ヲ過チタル罪ニ由レリ○巴勒ヨリノ報告ニ方今國人ニハ軍勢平民共ニ確乎トシテ不動断然決心ノ様子ナリ且ツ曩時ト違ヒ糧食等モ

十分ニ整ヒシトソ○巴勒以西ニ在ル普軍英国ヨリ糧資ヲ輸送ス可キ為ダイプ港ニテ待チ居タリシカ仏国ノ巡船嚴密ニ捜索シテ其事ヲ妨ケシトノ風説アリ○普軍ツウルシヤンセイヽン ノ三府ヲ拠有シ爰ニテ軍糧兵器大砲等ヲ受ケ取レリ○王族ナポレヨン ヨリ廃帝ナポレヨン ノ姪男仏将シアンカルニーノ許ニ来訪シ仏国帝位ヲ要スルノ談判ニ及ビシガ直チニ論破サレシトソ

仏国ニハ貿易ノ為メポンフルウルヲ開港ス○ダイプ フェカンプノ両港ハ今ニ仏船隊ニ取圍マレタリ

第十二月二十五日我十一月四日倫敦ヨリ兼テブレッス港ニ碇泊ノ仏ノ運漕ノ船隊其趣意ハ知レサレドモ大軍ヲ具ヘ将ニ出帆セントスル様子ナリ

仏国ニハ新募兵士ノ軍配ヲ速カニ廟算アリシ○里昂ノ仏人敵兵ノ現今ノ挙動ヲ察シ自ラ謀ラク普軍斯ク迄侵入セシト雖モ国外ニ悉ク追卻スルノ期ハ近キニ有ル可シトナリ○現今仏国

在陣ノ普ノ精兵其總數六十万ニシテ半ハ巴勒ヲ取圍ミ十萬ハ病兵ナリ戰爭以來ノ戰死人傷痍人ハ三十萬ナリ○普ノ自国ニテハ警固ノ軍務ヲ以テ義勇兵ニ任シタリ蓋シ是レハ其年齡モ齊シカラス已ニ軍役ノ用ニ中ラザルノ年限ノ過キタル者アルニ由テ規律ノ整ヒタル軍務ニ充ツル能ハス

第十二月二十七日 我十一月六日 ボルドウヨリ普軍一万ノ炮兵ヲ以テブロワニ拠リ固ヨリ官屋民舍ヲ擇ハス到ル処ノ人家ヲ盡ク乱妨セリ○普軍二萬オルレアンニ止宿ノ間ハ士官兵士共ニ乱妨ノ所為ニ及ヘリ

第十二月二十四日 我十一月三日 倫敦ヨリ伯灵ヨリノ新聞ニ黑海事件ニ付テ魯国ヨリハ其国論ヲ英国ヘ言ヒ送リシニ英国ニテハ兎角ノ應答ニ及ハサル由ノ説アレ氏此事恐ラクハ虚説ナルベシトノ事ヲ載タリ

普国ト盧森堡（リヲクセンブルグ）トノ交際ニ付普ヨリ同国ニ左ノ

由ヲ注告ス○コオントビスマルクハ真実ニ去ル千八百六十六年我慶應四年盧国一件會盟ノ主旨ヲ違背スルヲ好マズ且ツ同国ニハ久シク局外中立ヲ固守シタルニ於テハ之レガ特立ヲ助ケサルヲ得サル事ヲ反覆辨論セリ去リナカラ普軍盧領通行ノ間ニ若シ彼ヨリ爭端ヲ開ク事アラバ其時ユヱノ問罪ニ及ブ可シトナリ

第十二月二十三日我十一月二日倫敦ヨリ仏国ニテハ東方事件各国ノ集會ヘハ外國事務執政ビユルフアブル氏ヲ名代人ニ差出スナラシ○羅馬法王ニハ以国王師ノ為メニ其都府ヲ奪ハレタル後墺普英三国之レヲ憐ミ法王隱遁ノ場所ヲ與ヘンコヲ言ヒ出セリ法王ニハ多分マルタヲ請取ナル可シ

第十二月二十七日我十一月六日紐育ヨリ倫敦ヨリ我オールド新聞社中ヘノ別段ノ報告ニハ第十二月二十三日我十一月二日ブエルサイルヨリノ音信ニ云ラク普王ウヰルレムモルトッケビスマルク等ヲ

暗殺セント企シ者アリシガ二三日前ニ其事發露セシトゾ

仏人モオン、ファレリアンノ外面ニ数砲臺ヲ築造セシガ此處ヨリ發砲ノ破裂弾普軍ノ本営ウェルサイルヲ越エテ雨ノ如クニ落チ散ケレバ普軍竟ヒニ此処ニ滞在シ難シトナリ

第十二月二十七日我十一ウ井ルサイルヨリ」ロスニー城ノ東凡ソ二千五百ヤルド我二十丁ノ距五十間離ニ新築シタルアブロン城ニシュルレモンエルメールクリテイ等ノ都府ニ達スヿキ海上砲ヲ引揚ケ薩人ノ發砲ニ報ウルニ真最初ニ發砲セシガサセル損亡ハ無カリケレドモ其圖ハ過タサリシトナリ○普王ウ井ルレム并ニ王妃ニハ英国女主ノ息女ルイザヲアルビル領主ノ嫡子ローンノマルキユイスヘノ縁組ノ約束ニ及ビシガ何分国人ノ居合ヒ悪シケレバ此事ノ施シ難キ由ヲ女主ノ許ニ書キ送リケレバ女主ハ大ニ不快ニ思ヒ一旦契約ニ及ヒシ事ヲ草率ニ廢

止シ夫レニテ職掌ノ立ツベキヤナト云フ丁ノ返答ニ及ヒタリ是ヨリ英国官府ヨリシテモ日国ニ對スルノ意見更ニ前日ニ異ナリシト

ビスマルクハレユールフアフルニ往来手形ヲ與ヘ各国ノ會議ニ出立セシムルヲ拒メリ○仏国ロアン府ノ傍ヲ流ルヽセイント云河ニテ源因ハ分明ナラサレド普軍英国ノ船七艘ヲ覆没セシメシ丁アリテ英人ノ憤リ大方ナラズ就中當府在留ノブハイスコンシュルハ飽クマデ普国ニ此事ヲ厳責ニ及ヒタリ

英国ノ執政クランビール氏ノ許ニ普ノ政府ヨリ達スル書翰ニハセイン河ニ於テ英船ヲ乱妨セシ丁ヲ陳謝シ且ツ貴国ニ於テ償金ヲ望ムニ於テハ之レヲ寄贈ス可シ且ツ自国ノ将帥ヲバ右乱妨ノ罪科ニ由テ軍議ノ裁判ヲ遂ケ已ニ免職申付シトナリ

トリビュン新聞ヘマルグニーヨリ」二十八日我十一月七日傳信機ノ報告ニ昨日普軍ノ陣スルライニーヨリ發砲ニ及ヒタル十二ノ破裂弾七千ヤルド

我五十八丁余ノ彈道ヲ隔タル巴勒ノ内ラウイルレソテ及ヒヘルビルト云フ町ニ落チタリ

第十二月三十日我十一月九日倫敦ヨリ」日国ヨリ仏国迄ノ路次ニ百万ノ援兵アリシトゾ

第十二月三十日ドレスデン薩都薩国ノ太子ヨリ父君シヨンノ許ニ贈リタル書翰ニ云ヘラク吾ガ軍モオンアブロンニ繰込ミシニ早其所ノ守兵ハ散亡セリ仏軍ニハ已ニ大砲ヲノアシイニ移シタリ故ニ日国ノ砲隊ノアシーヲ初ーシテ

メルランポンデイ等ニ向ケテ発砲ス可キ整列ニ及ヒタリシガ仏軍斯ル景況ヲ見ルヨリ巴勒ノ道中ヲ指シテロスニー村ヨリ逃去レリ

第十二月三十日我十一月九日倫敦ヨリ」普人ノ説ニコロ子ルボルロスタイン歩兵六小隊騎兵二隊大砲二門ノ分兵ヲ指揮セシガモオントアシーニ於テ仏軍ニ取囲マレ殆ンド死地ニ陥入ラントセシカハ普軍ハ無二無三ニ戦ヒ竟ヒニ一方ヲ撃破リ纔カ士官百人ヲ失ヒ敵二百人ヲ生擒リ

其場ヲ退去シタリ○普將シユウセーハ將サニ攻擊ニ取掛ラントテシントカライノ方ヘ進發ス○普將ウエルデルハベエソーニ退去ス○王族フレデリッキチヤルレスハ其軍ヲオルレアンニ引纏メタリ○普國ヨリ仏執政ガムベッタ氏ノ許ニ和儀ノ談判ヲ言ヒ送レリトノ説アリ

同月同日倫敦ヨリ」東方事件ニ付キテノ各國ノ集會最早始ル可キノ處仏國ニハ名代人ヲ出スヿヲ嫌ヒシ故曩時巴勒會議ニテ盟書ニ調印シ

クル各國ノ内一國タリトモ出席ナキニ於テハ會シテ詮ナキトシテ荏苒延會トナレリ

フレッス新聞社中ヘ或ル傳信機ノ報告ニ魯帝ニハ土帝ノ許ヘ自筆ノ書翰ヲ贈レリトヅ○土ノ船將ポハルト、パッチヤノ指揮シタル多クノ船隊ヲ紅海ニ備ヘタリ是レハ亜拉比亜ノ逆徒ト共ニ隱謀ヲ企テタル疑ヒ及人ヲ鎮壓セントアナシタルモノナリ○其他種々ノ源因ニ因テ魯土ノ間ニ密和ノ契約アリシト云フ風説ハ全ク

浮虛ニ皈シタリ

第十二月廿八日我十一紐育ヨリ二三日前ニ巴勒ヨリノ進擊兵ノ働キ最勇マシカリシガ竟ニハ充分ニ追卻サレタリ是レ即チ其志氣ニ於テハ勇マシク擧行ニ於テハ弱ワキ者トス○巴勒ニ於テ戰士十万人許多ノ加農船バッデリー砲隊二十余アリ但シ上堡ノ大砲ハ其中ニ筭セズ

同月同日マッドリイド都ヨリ見ト國ヲ敵ス

改サガスタ氏同國議院ノ長官ニ補セラル

同月同日孔士旦ヨリ土國政府ニハ此度倫敦ニ於テ發行アル可キ會議ニ於テダニウブ河河一件曾テ此ノ河ニ就キ魯土兩國船艦ヲ備置クト置サル等ノ事ヲ云フヲ發スル好マザル由ヲ論述セリ

リユウトル傳信機報告

第一月十二日我十一月廿三日倫敦ヨリ仏將レヤンジイノ率ル二十万ノ兵普將フレデリック、チヤールレスノ兵ニ大ニ敗ラル○本月十日我十一月二十日ノ夜ニ普軍ヨリ打掛ケタル破裂彈ノ巴勒ニ落チタル数二千箇ナリ○巴勒ノ人民少シモ恐レス防戦セントス○仏兵ルージモンニテ勝ヲ得タル由

右新聞ハ第一月十四日我十一月廿四日新嘉坡ヨリ

達ス

第一月十三日我十一月廿三日倫敦ヨリ仏兵巴勒ヨリ突出シテ戦ヒシガ利アラズ○仏ノガルド、モビール隊故ナクシテ急ニ恐怖シタルニヨリ仏兵ルマンニテ敗ヲ取レリ其将シヤンジイハ其兵隊ヲ組直シ再ヒ戦ントス

右新聞ハ第一月十六日我十一月廿六日新嘉坡ヨリ達ス

千八百七十一年第一月九日我十一月十九日倫敦ヨリ

普ノ王族フレデリック、チャールレス兵ニ将トシテルルンノ方ニ進ミ仏将シヤンジイノ率ル二十萬人ノ兵ヲ撃ントス○仏将ブールバキハ方今ヂジョンニ陣シモン、ベアールルノ方ニ進行ス○莱泥河トローヌ河トヲ相接スル溝渠ハ日兵之レヲ堅固ニ防守ス○ウエルサイルヨリ昨日ノ報告ニ巴勒ノ堡砦ヨリハ未タ烈シク発砲スル事ナシト○クラマーノ仏砦ハ日兵之レヲ攻取リ其砲ヲ以テ巴勒ニ打掛ケタリ

第一月十八日我十一月廿八日倫敦ヨリ本日和議ヲ講センガタメニ會議ヲ為シタリ二十四日我十二月四日ニハ再ヒ會議ヲ為ス可シ○仏兵クラマー砦ヲ取返サンカ為ニ巴勒ヨリ攻出セシニ終ニ其意ヲ果サス○日兵頻リニ巴勒ヲ攻撃ス

右ノ新聞第一月二十日我十一月晦日新嘉坡ヨリ達ス

海外新聞三十五号畢

御用御書物所
東京本町四丁目
紀伊國屋源兵衛
藏版